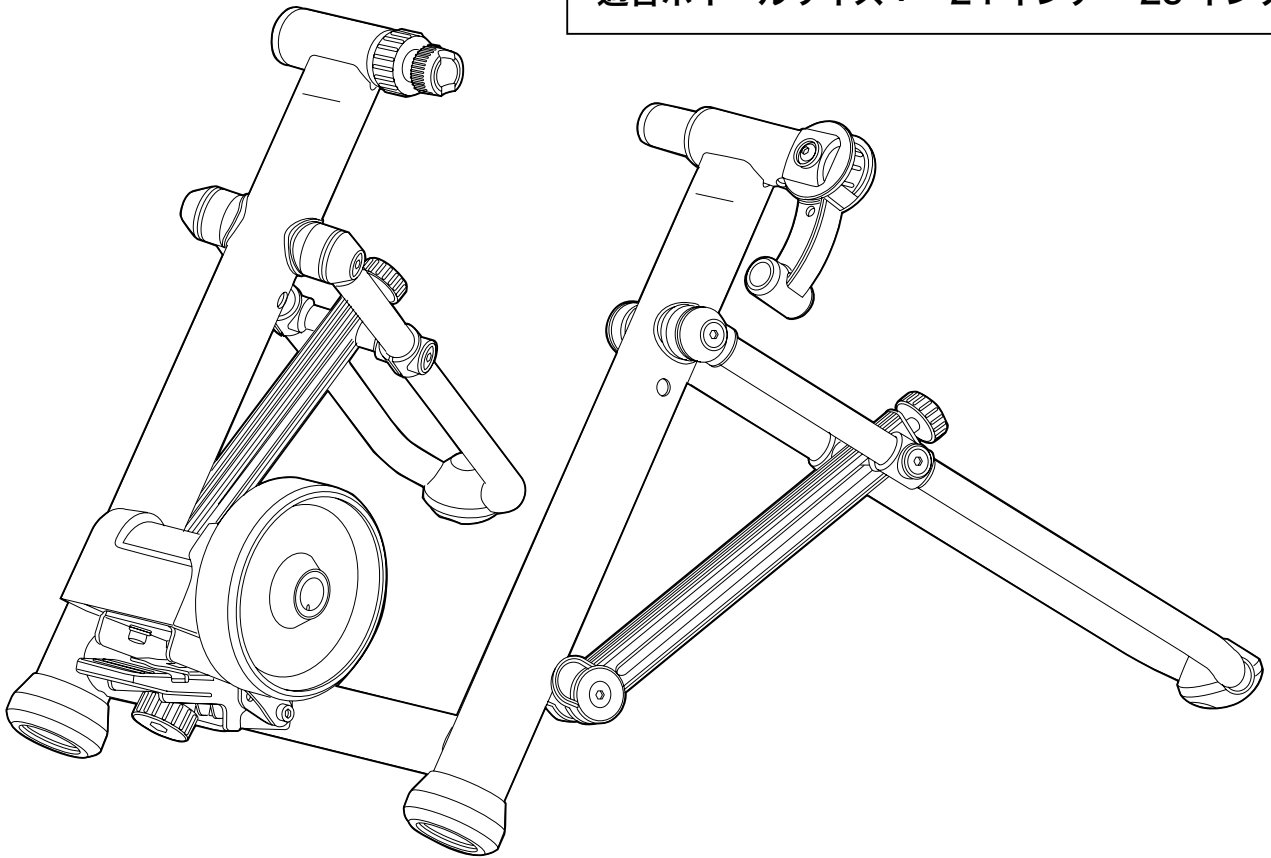


適合ホイールサイズ： 24インチ～29インチ



はじめに

このたびは弊社「GYRO V270」をお買い求めいただきましてありがとうございます。

V270は、その特徴的な断面形状により実重量よりも35%も重い重量を仮想的にもたらす「GYRO技術」(特許申請中)を採用したフライホイールにより、他のトレーナーにはない優れた性能を発揮します。

新たに採用されたネオジム磁石は一般的なフェライト磁石よりも4倍も強く、軽い負荷から重い負荷までかつてない幅広い負荷領域を提供します。またフライホイール内側にある特殊な段差形状加工により、各レンジが均等間隔に配置できるよう設計してあることも特徴のひとつです(他社品では不等間隔でしかありません)。

特徴的なU字型脚は、見た目のユニークさだけでなく、軽量さと剛性を両立させる設計思想のもとに採用されました。左右の脚には調整ノブが付いており、それぞれ $\pm 10\text{mm}$ ずつその接地点高さを変えることができます。これにより段差のある床や凹凸のある屋外での使用時にも安定した姿勢を確保できます。

この取扱説明書は、商品を使用している期間中は紛失しないようにきちんと保管しておいてください。

お問い合わせ先

ご質問がある場合は、まず添付の製品保証規定をしっかりとお読みになり、お買い求めになったショップにまず最初にご連絡ください。

<販売元>

株式会社 深谷産業
〒460-0015 名古屋市中区大井町1-38
TEL (052) 321-6571 / FAX (052) 332-3166
fk.info@fukaya-sangyo.co.jp
www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦
〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸1197-1
TEL (0584) 27-3131 / FAX (0584) 27-7505
infodesk@minoura.jp
www.minoura.jp

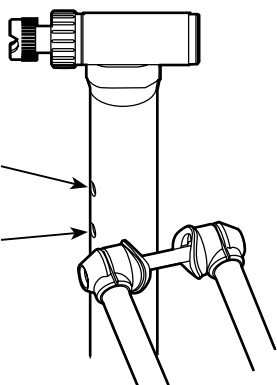
U脚の組み立て方

使用する工具： 5ミリ六角レンチ（添付品） 2本

1

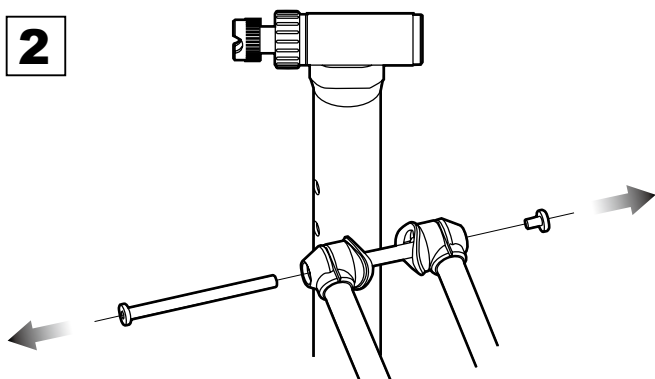
700C ~ 29" 用

24" ~ 26" 用



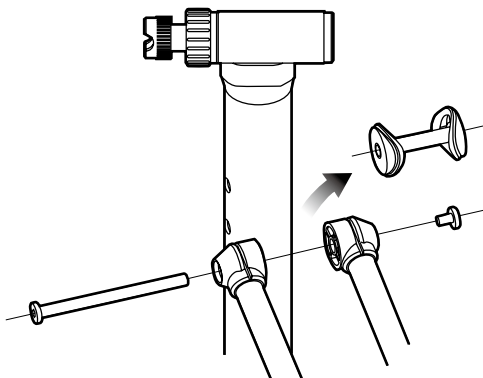
まずホイールサイズに適合する主支柱上のU脚取り付け位置を選びます。

2



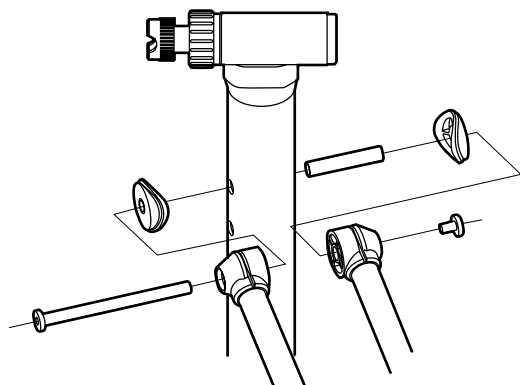
いったんピボットボルトを分解します。

3



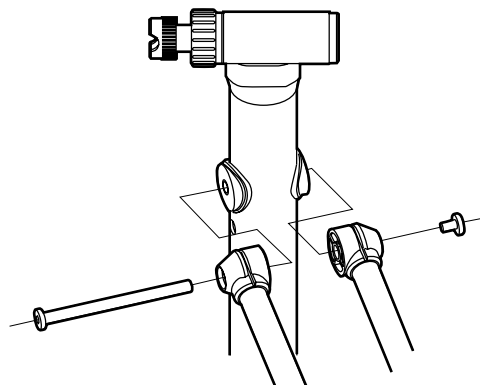
アルミチューブと樹脂ワッシャを取り除きます。

4



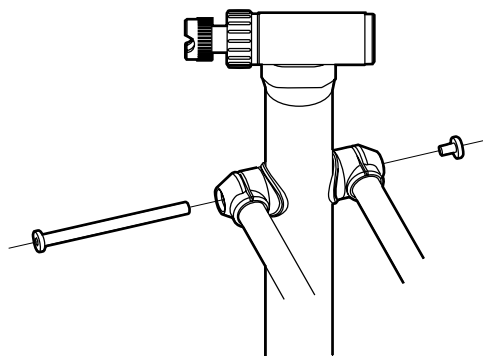
アルミチューブを主支柱に通し、左右から樹脂ワッシャをあてがいます。樹脂ワッシャは凹んでいる面を支柱側に向けてください。

5



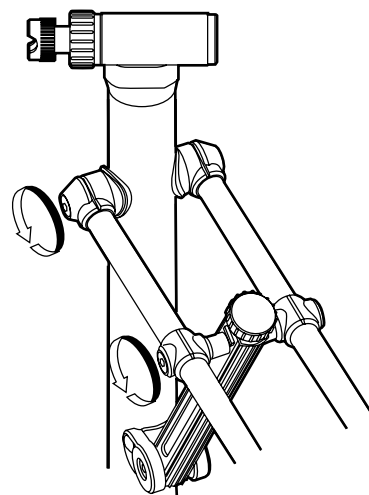
U脚を主支柱と組み合わせ、それぞれ孔を合わせます。

6



ピボットボルトを通し、反対側からボルトを締め込みます。固くて通らない場合は軽く叩きながら通します。

7



ピボットボルトをしっかりと締め付けます。U脚中間部のピボットボルトは最初から意図的に緩めてありますので、こちらも一緒に締め込みます。



中間部のボルトは締め込みすぎるとU脚の動きが渋くなってしまいますので、ガイドに沿ってU脚が軽く動く程度までにしてください。

負荷装置とフットペダルの取り付け方

使用する工具： 5ミリ六角レンチ（添付品） 1本
10ミリスパナ（添付なし） 1本

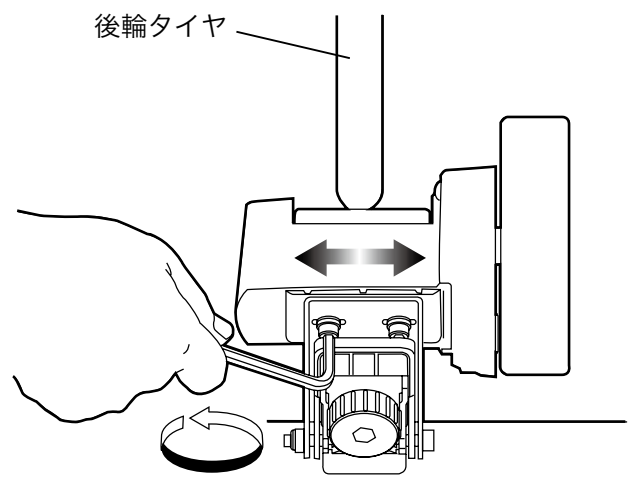
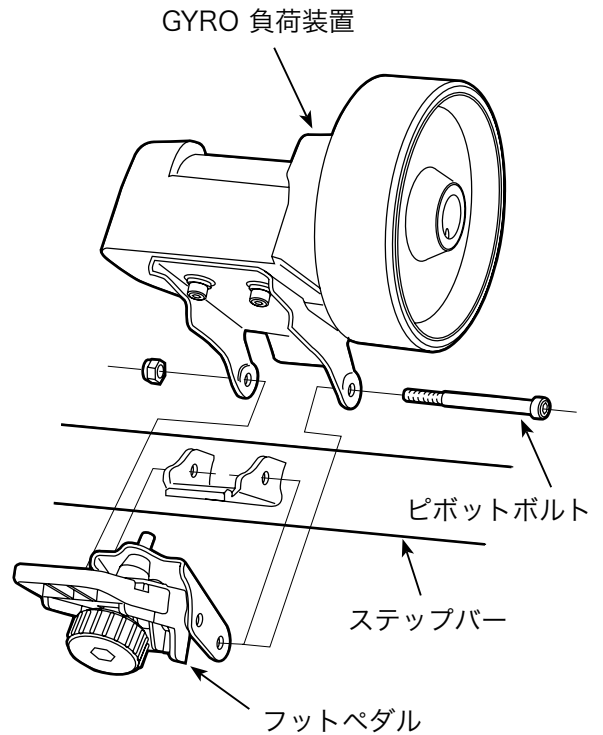
GYRO 負荷装置とフットペダルは、お客様により本体に組み付けなければなりません。

負荷装置取付台座とフットペダルとを組み合わせ、それをピボットボルトでステップバー上の取り付け金具に通します。ボルトを通したら6ミリナイロンナットを締め込みます。



ピボットボルトを締め付けすぎるとフットペダルや負荷装置が動かなくなってしまうので、完全に締め込んだ後 1/4 ~ 1/2 回転ほどナットを緩めてください。適切な締め込み状態は、持ち上げた負荷装置が自重で1秒程度かけてゆっくり降りてくる程度です。逆に緩めすぎてあまり早く降りてきてしまうようにすると、手などを挟んでしまう恐れがありますのでご注意ください。

後輪タイヤをできるだけローラーの中央に位置させるため、負荷装置は左右にその位置を調整することができます。負荷装置裏側の2本のボルトを緩め、適宜移動させた後、再びしっかりと締め付けておいてください。

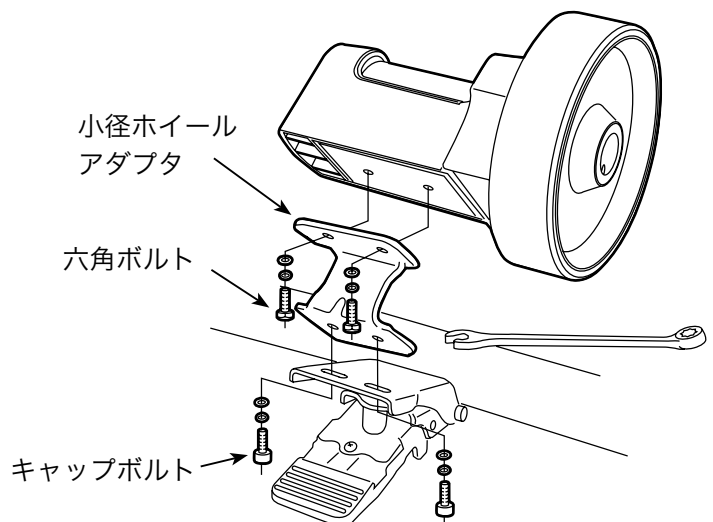


小径ホイールアダプタの使い方

26x1.75 インチサイズより小さな直径のタイヤを使う場合は、ローラーがタイヤに届かなくなることがあります。その場合は添付のZ型の「小径ホイールアダプタ」を負荷装置と取付台座との間に取り付けてください。

アダプタの向きは上面に矢印で示してあります。その矢印を自転車の進行方向に合わせてください。もしアダプタを装着してもローラーがタイヤに届かない場合は、アダプタの向きを確認してください。

もともと負荷装置を台座に固定するために使っていたキャップボルトは、アダプタを台座に固定することにご使用してください。アダプタに負荷装置を取り付けるには付属の六角ボルトを使用してください。

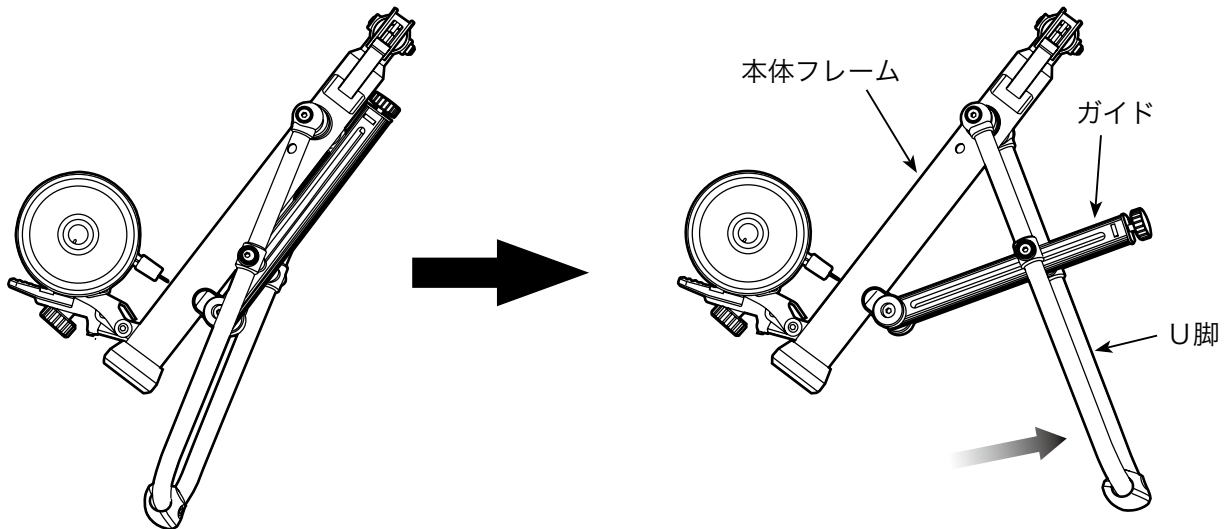


V270 の設置方法

まず脚をいっぱいに関き、水平で平坦な床の上に置いてください。

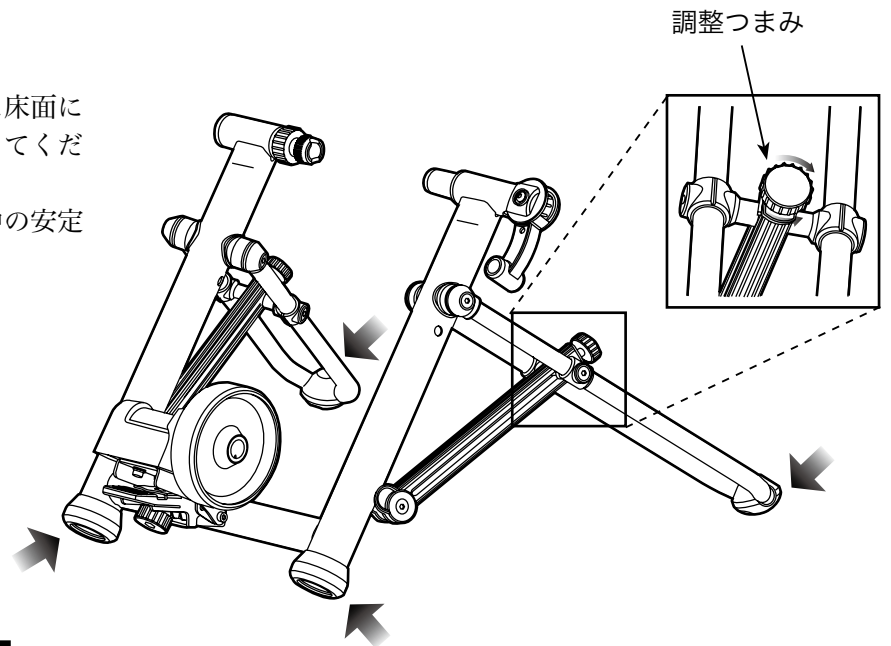


U脚を開くには、先端の脚ゴム部分と本体フレームを持って行なうようにし、アルミ製のガイドは直接持たないようにしてください。ガイドが曲がってしまうと脚の開閉ができなくなります。



本体フレームと両U脚の先端の4箇所が同時に床面に接し、がたつきなく安定していることを確認してください。

4点が同時に接地していないとトレーニング中の安定を確保できなくなります。

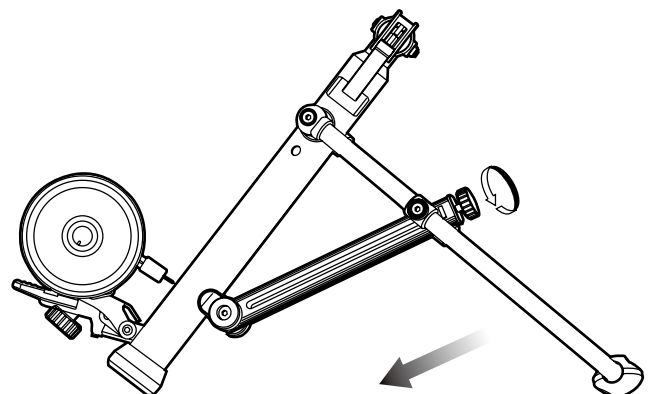


脚角度調節機構について

それぞれのU脚にはガイドの先端に調整つまみが備えています。

これを調節することで各脚とも ± 10 ミリの範囲で独立して高さを変えることができ、どのような床面の状態であっても、4点とも接地した安定した設置を行なえるようになります。

また両脚ともいっぱいに関くことで、自転車そのものの高さを低く抑えることもできます。



自転車の装着のしかた

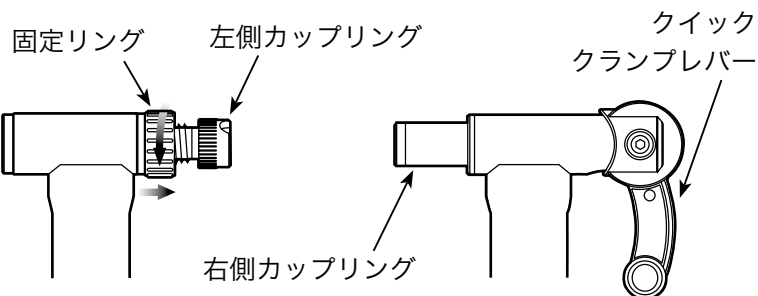
V270 のカップリングはあらかじめ工場で 125 ミリの標準的なハブ幅に合わせてあります。しかしもしそれがお使いの自転車に対して狭すぎたり、逆に広すぎる場合は、左側のカップリングで調整してください。右側には調整機構はありません。また調整後はタイヤがローラー中央部に接していることを確認してください。

! V270 のカップリングは、添付のクイックリリースにのみぴったりフィットするように設計されています。そのため V270 を使用する場合は、後輪のクイックを添付のものと交換していただく必要があります。弊社ではご自身のクイックをそのまま使用した場合の安定は一切保証いたしません。

! もしお使いになる自転車の後輪ハブがクイック式ではなくナット式の場合は、添付のクイックリリースは使用しません。このときナットがカップリングにきちんとはまり込むかどうかを確認してください。このときも自転車の安定性に関しては弊社は一切の責任を負いかねます。

以下の説明は左側のカップリングの調節方法です。自転車が変わらない限り一度設定した状態はずっと保たれ、その後は自転車の付け外しの際にいちいち調整し直す必要はありません。調整し終わったら右側のクランプレバーを操作するだけで確実に自転車を固定します。

1 まず固定リングを左向きに回して緩めます。



2 左側カップリングは大きなボルトの構造です。回転させて深さを調節してください。

3 右側のクランプレバーを持ち上げ、右側カップリングを引き込みます。

4 まず後輪のクイックリリースのうち左側（レバー側）を左側カップリングの中に挿入します。

5 そのまま、次にクイックリリースの右側（ナット側）を右側カップリングに挿入できる位置に移動させます。リアディレーラケーブルはカップリングの上を通してください。

6 この状態でクランプレバーを押し下げ、右側カップリングでクイックリリースのナットを押さえ込みます。

7 クランプレバーが最後まで押し込まれ、これ以上動かないようロックされたことを確認してください。このときフレームはハブを押さえ込んだ反動で軽く開きます。もしクランプレバーが固くて押し込めない場合や、フレームが大きく広がってしまいそうなときは、いったん自転車を取り外し、左側カップリングを再調整してください。きついまま無理矢理セットするとトレーナーや自転車を破損させてしまいます。

8 サドルなどを掴み自転車を左右に揺さぶってみて、自転車ががたつきなく確実にトレーナーに固定されたことを確認してください。

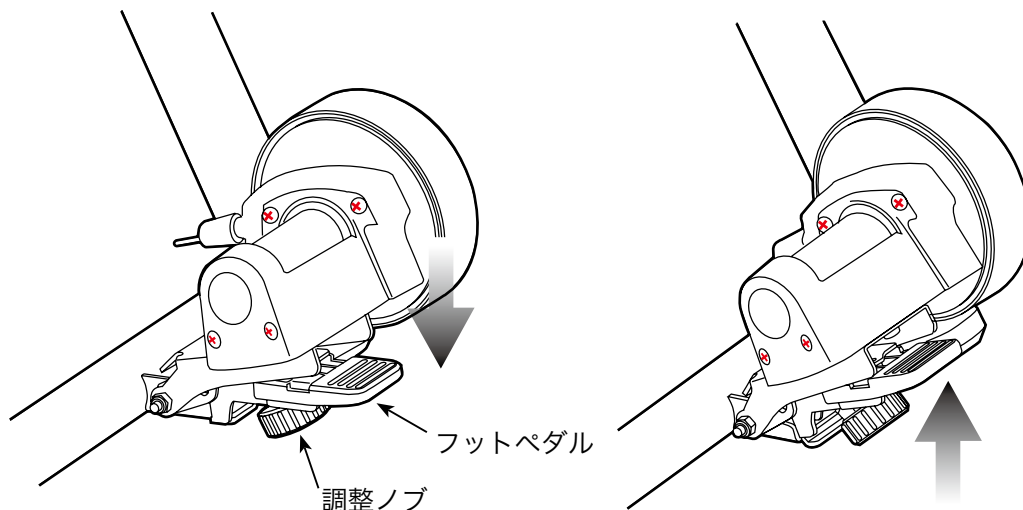
9 最後に、固定リングをしっかりと締め込んで、左側カップリングを固定しておいてください。

フットペダルについて

タイヤをできるだけ長持ちさせるためには、適切な力（量）でローラーをタイヤに押し当てる必要があります。フットペダルは、一度設定するだけでその後はペダルの操作だけで簡単に同じ強さを再現できる便利な機構です。タイヤを長持ちさせ快適なトレーニングを継続するためにも、最初は適切に調整してください。

ローラーを押し当てる場合： ペダルを押し下げる

ローラーから引き離す場合： ペダルを引き上げる



⚠ 便宜上「フットペダル」とは呼んでいますが、ペダルの破損を防止するためできるだけ手で操作するようにしてください。

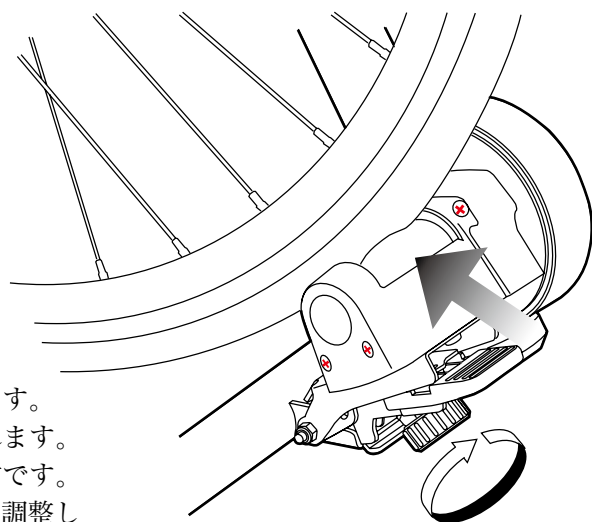
フットペダルの調整のしかた

1 まず負荷装置のみを持って前方に引き起こし、ローラーとタイヤとの間隔がおおよそ2ミリになるようにします。

2 この位置を保ったまま、ペダルを上げた状態でフットペダル下の調整ノブを右方向に回していきます。調整ノブのボルトの先端が負荷装置取り付け台座に達したら、回すのを止めます。

3 ゆっくりと、しかし確実にフットペダルを最後まで押し込みます。負荷装置が持ち上げられ、ローラーがタイヤに強く押し込まれます。ローラーがタイヤを3～4ミリの深さで押し付けていれば正常です。もし過不足がある場合はいったんペダルを引き上げて解除し、調整し直してください。

4 いったん自転車に乗って漕いでみて、後輪がスリップしていないことを確認してください。もしまだスリップしているようならローラーの押し当て量が少なすぎます。調整ノブをあと1/4～1/2回転ほど締め込んでみてください。もしゴムが焼けるような臭いがするときは押し当て過ぎです。1/4～1/2回転ほど調整ノブを緩めてみてください。



⚠ ローラーのタイヤへの押し当て量は適切に調整されていなければなりません。押し当て過ぎよりも押し当て不足の方が、よりタイヤを摩耗させてしまうことも覚えておいてください。

リモコンシフターの使い方

V270には便利なリモコンシフターが標準装備されています。シフターをハンドルバーやステムに装着しておくことで、いちいち自転車から降りることなく希望の強さに負荷を変えられます。またリモコンシフターと併用して、自転車側のギアを操作することで負荷の微調整を行なうこともできます。クランプバンドは布製なので、エアロ形状のハンドルバーにもフィットします。

リモコンシフターの装着方法：

- 1) ハンドルバーなどにシフターのクランプバンドを巻き付ける。
- 2) バンド先端の金属リングをシフター基部の溝に掛ける。
- 3) ロックレバーを引き上げる。

負荷の上げ方：

リモコンシフターのレバーを「H」方向に回す。

負荷の下げ方：

リモコンシフターのレバーを「L」方向に回す。



「L」位置は負荷ゼロではありません。
Lであっても最小限の負荷はかかっています。

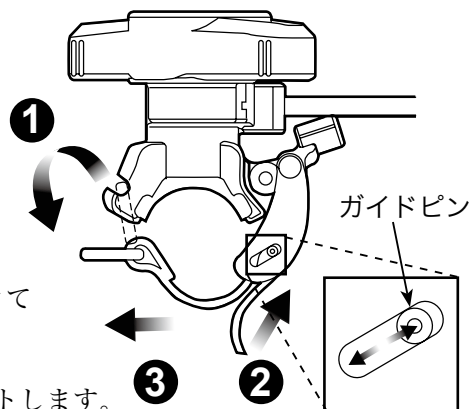
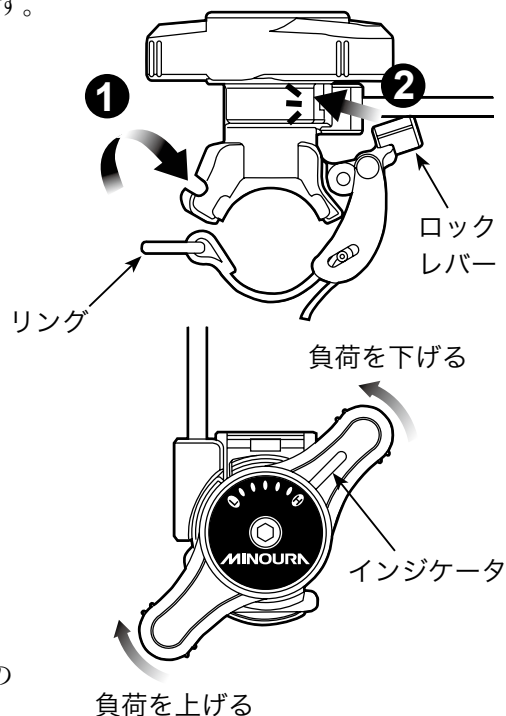
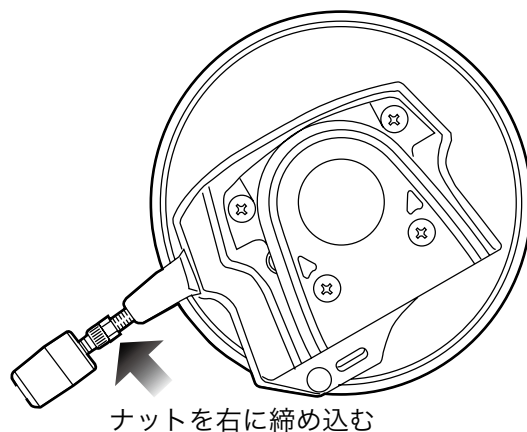
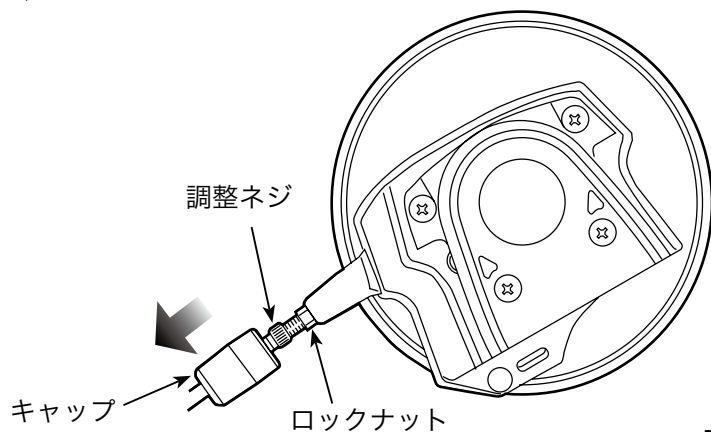
リモコンシフターのクランプバンドはあらかじめ直径22ミリの標準サイズのハンドルバーに合わせてあります。

もしそれがきつ過ぎたりゆる過ぎたりする場合や、あるいはステムなど他のサイズのものに取り付ける場合には、クランプバンドを調整し直してください。このときバンドのガイドピンを押し下げておくと調整がしやすくなります。

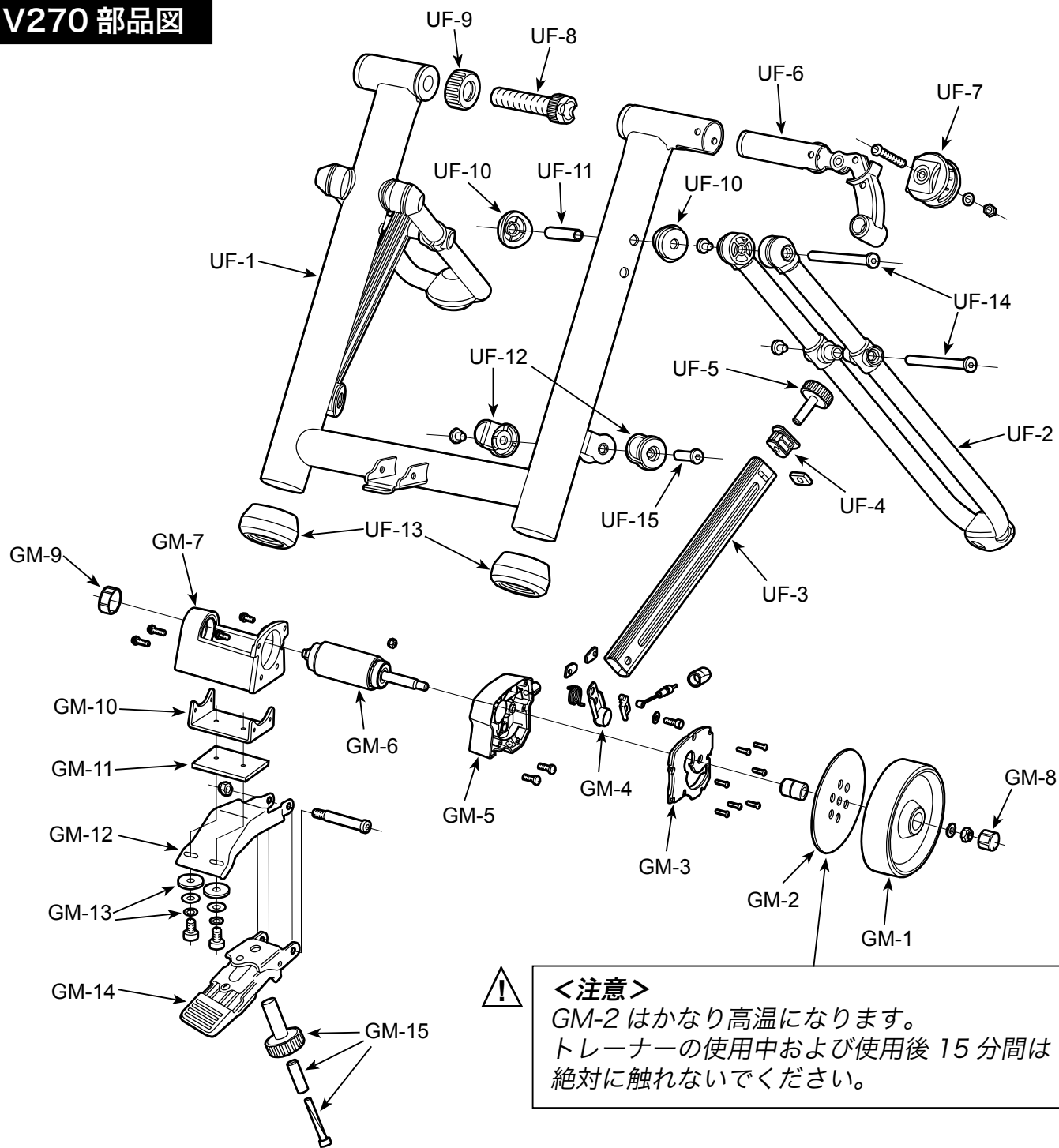
リモコンケーブルのテンション調整

もしリモコンレバーをLやHにセットできなくなったら、ケーブルが伸びてきています。下記の手順でテンションを調整してください。

- 1) まずケーブルをまっすぐに伸ばし、リモコンシフターを「H」の位置にセットします。
- 2) ケーブル根本の黒い樹脂キャップを引き抜くと、そこに調整ネジが現われます。
- 3) 黒いアウターケーブルをシフター方向に押し付けたまま、調整ネジをアウターケーブルに押し当てます。
- 4) その位置を保ったまま、ロックナットを負荷装置の本体ケースに当たるまでねじ込みます。
- 5) 樹脂キャップをかぶせ直します。



V270 部品図



<注意>

GM-2 はかなり高温になります。
 トレーナーの使用後および使用後 15 分間は
 絶対に触れないでください。

UF-1	: メインフレーム	GM-1	: V270 フライホイール
UF-2	: U脚	GM-2	: アルミローター
UF-3	: U脚ガイド	GM-3	: ハウジングカバー
UF-4	: 脚調整キャップ	GM-4	: ネオジム磁石
UF-5	: 脚調整つまみ	GM-5	: ハウジング
UF-6	: 右側カップリング・クイッククランプレバー	GM-6	: ドライブローラー
UF-7	: クランプレバーガイド	GM-7	: 軸受け
UF-8	: 左側カップリング	GM-8	: フライホイール用キャップ
UF-9	: カップリング固定リング	GM-9	: 軸受け用キャップ
UF-10	: 樹脂ワッシャ	GM-10	: 負荷装置取付金具
UF-11	: アルミチューブ	GM-11	: 振動吸収ゴム
UF-12	: U脚ガイドカバー	GM-12	: 負荷装置取付台座
UF-13	: 脚ゴム	GM-13	: ゴムワッシャ
UF-14	: ピボットボルト (長)	GM-14	: フットペダル
UF-15	: ピボットボルト (短)	GM-15	: フットペダル調整ノブ